



## 特集

採れたて阿蘇産トマトはいかが？

さあ、  
農業を始めよう！

### 新規就農者支援制度

阿蘇市では、新規就農者を支援するため、営農費用の一部を助成する独自の支援事業を行っています。予算の範囲内で随時受け付けています。ぜひご利用ください。

#### ●支援対象者

新たに農業経営を開始し、次の条件を全て満たす人

- (1)阿蘇市内に住所を有する人
- (2)阿蘇市内で就農後5年以上営農を営む人
- (3)就農計画の認定を受けた人

#### ●支援内容

農業用機械・施設などの導入に要する費用とし、農業経営の開始に必要な経費を補助

#### ●支援額

- (1)補助対象経費額の2分の1以内の額で150万円を上限
- (2)国または県事業を実施する人は自己負担額の4分の1以内の額で50万円を上限

### 青年等就農計画制度

「青年等就農者制度」とは、これから就農しようとする人が、将来の農業経営の構想や目標を盛り込んだ「青年等就農計画」を作成し、市が認定する制度です。

認定を受けた方（認定新規就農者）に対しては、重点的に支援措置を講じられます。

●**対象者** 対象者は、新たに農業経営を営もうとする青年などで、以下に当てはまる方です。

- ▶青年（原則18歳以上45歳未満）
- ▶特定の知識・技能を有する中高年齢者（65歳未満で、商工業その他の事業の経営管理に3年以上従事した人など）
- ▶上記の人が役員の大半数を占める法人

#### ●主な支援措置

##### ① 青年等就農資金（無利子融資）

新たに農業経営を営もうとする青年などに対し、農業経営を開始するために必要な資金（機械・施設の整備など）を長期、無利子で貸し付けにより支援します。

##### ② 青年就農給付金（経営開始型）

新規就農される方に、農業を始めてから経営が安定するまで最長5年間、年間最大150万円を給付します。

問農政課 農業振興係 ☎ 22-3274



出荷を終え、不要なわき芽を摘み取る「芽かき」などの管理作業を行う鰐川さん。

金額を押えるためには、さまざまな補助金を調べて活用してほしい」とアドバイス。また、「いかに親身になってくれる受け入れ農家さんを見つけられるかが、成功の力を握る。農業の師弟という間柄だけでなく、一人の人間として信頼関係を築くことが何よりも大事」と自身を振り返る。

「大風呂敷だが・・・と前置きし、「師匠を目標に、世界に通用する高いトマト技術を身につけたい」と謙遜しながら話す言葉の裏に、強い決意を感じた。

## 工房阿蘇ものがたり

阿蘇市一の宮町宮地 538-1 / ☎ 22-1475  
(四季彩いちのみや敷地内)



(右)工房阿蘇ものがたりの従業員の皆さん。  
「ことしは特に忙しい」と仕事にも熱が入ります。(写真右が大塚社長)



人気商品の一つ「とまとケチャップ」



製造所のような様子。現在は10名の従業員がフル回転でそれぞれの作業に当たっています。

工房阿蘇ものがたりは、地元農産物を利用した特産品の製造と試作研究を図ろうと、旧一の宮町が平成15年に建てた施設です。現在は、指定管理者として「有限会社工房阿蘇ものがたり（大塚一雄取締役社長）」が経営し、トマトをはじめとした阿蘇の農産物を加工、約30点の農産加工品を販売しています。

中でも、人気を博しているのが「とまとケチャップ」。原材料であるトマトはもちろん阿蘇産。役大原の選果場

からトマトを仕入れ、選別から製造、商品パッケージの全てを従業員の手作業で行っており、「添加物は入っていませんが愛情はたっぷり入っています」と大塚社長も太鼓判を押します。

阿蘇産トマトは酸味と甘みのバランスが良く、ケチャップに最適とのこと、従業員も毎日味を確認し、いつもみんなで「美味しいねえ」と手間暇かけて作る商品に自信を見せます。

阿蘇の優れた食材に付加価値を付けて生み出された新たな美味しさ。特産品として市外へ発送する際は、地域のために阿蘇市の観光パンフレットなども同封し、観光PRを担うなど、地域に根ざした取り組みも行っています。

阿蘇の恵まれた環境の中で育つ農産物。それぞれに付加価値を付けることで可能性は大きく広がります。

# トマトの可能性は無限大。

加工品としての阿蘇産トマトの魅力





## 特集

採れたて阿蘇産トマトはいかが？

モスバーガーの代表的な商品「モスバーガー」



HOT NEWS

# モスバーガーのトマトを波野で生産

市とモスフードサービスとの間に  
農業参入協定を締結

ハンバーガー専門店を中心とした飲食事業を展開する(株)モスフードサービス(東京都)が、阿蘇市波野滝水と八代市の農場(計0・8ha)でトマト栽培を7月から開始するにあたり、市は、同社との間に農業参入に関する協定を交わし5月19日、熊本県庁で調印式が行われました。協定では、地域振興として資材などの調達を地元から優先して行うことや、地域住民の雇用を優先することなどを盛り込んでいます。

同社が熊本県に農業参入するのは今回で2例目で、全国のモスバーガーで使用するトマトの安定調達と産地との協力的体制強化を図るのがねらいです。平成32年度までに、八代市の農場と合せて年間収穫量約90tを生産する計画で、トマト生産に適した冷涼高冷地である波野が生産地として選定されたことで、雇用の拡大やさらなる農業振興が期待されます。

(株)モスフードサービスが八代市の農業法人マルミツアグリ(株)との共同出資により(株)モスファームマルミツを設立。阿蘇市と八代市の2つの農場間で安定的に提供するリレー出荷を行う。



1



2

1. 県庁で行われた協定調印式の様子。(株)モスフードサービスの櫻田厚代表取締役社長(写真左から2人目)らと手を取り合う佐藤阿蘇市長(写真右)
2. 波野滝水にある阿蘇農場。